

「んんう……っ！♡♡」

その状態で後ろの男がゆるゆると腰を動かしはじめ、口内の男までもが自ら動きだす。

「んんうう……っ！♡♡♡」

少年の体内に、狂気のような悦楽が湧きおこった。

まだ射精の段階にはこぎつけていないといえ、少年の躰はいまや敏感すぎるくらい敏感になっている。

前を縛られた状態で前後を犯されたりしたら、この躰は一体どうなってしまうのだろう。

「んんう……っ♡、っ！♡♡」

紐をほどいて、と訴えたくも、頭部を目の前の男に掴まれており、太魔羅を啜えさせられたままではどうにもならない。少年の頭は固定されたまま、その口内の形を愉しむかのように、ねっとり茎を出し入れされる。その怒張した硬い雁首が口蓋を擦るたび、ぞくぞくと背が痺れる。

痺れた背すじの先、尻の^{あわい}間では、これまたじっくりと男が大きく抜き挿ししている。原形もとどめぬほど^{とろ}蕩けた孔内とは対照的な、硬い楔。それが^{やわ}柔らかくなりすぎた内